

# 定期作況報告

令和元年 9 月  
(9月20日現在)



北見農業試験場

# 1. 気象経過

8月下旬：最高気温は平年に比べて極めて低く、最低気温はやや低く、平均気温は低かった。降水量は平年より多かった（平年比196％）。日照時間は平年並であった（平年比80％）。

9月上旬：最高気温は平年に比べて極めて高く、最低気温は平年並、平均気温は平年より高かった。降水量は少なかった（平年比9％）。日照時間は多かった（平年比169％）。

9月中旬：最高気温は平年よりも低く、最低気温はやや低く、平均気温はやや低かった。降水量は平年並であった（平年比95％）。日照時間は平年よりやや少なかった（平年比75％）。

以上のことから、この1か月間（8月下旬～9月中旬）は、気温は平年並、降水量および日照時間はともに平年並であった。

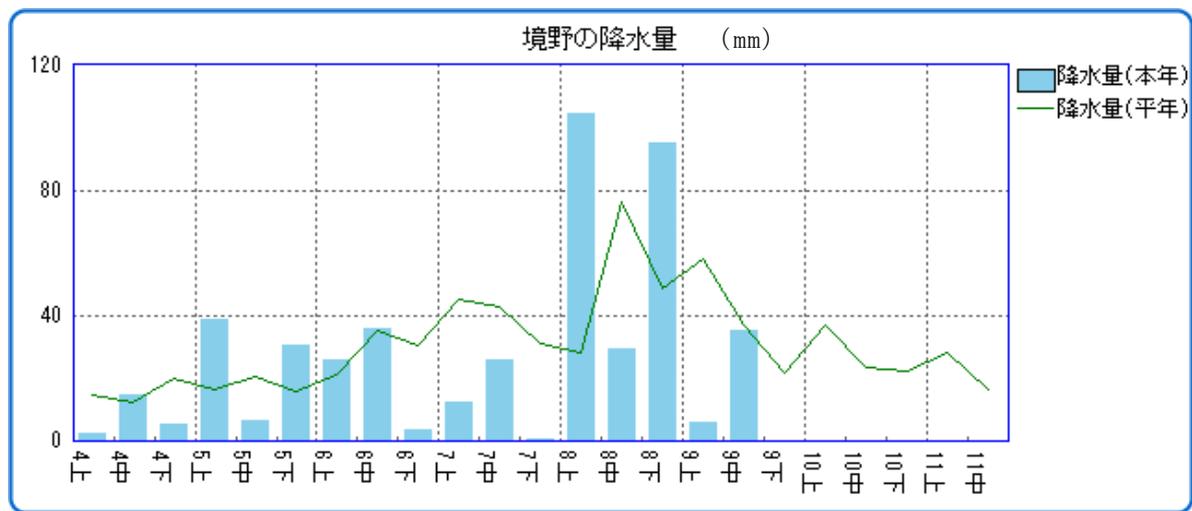
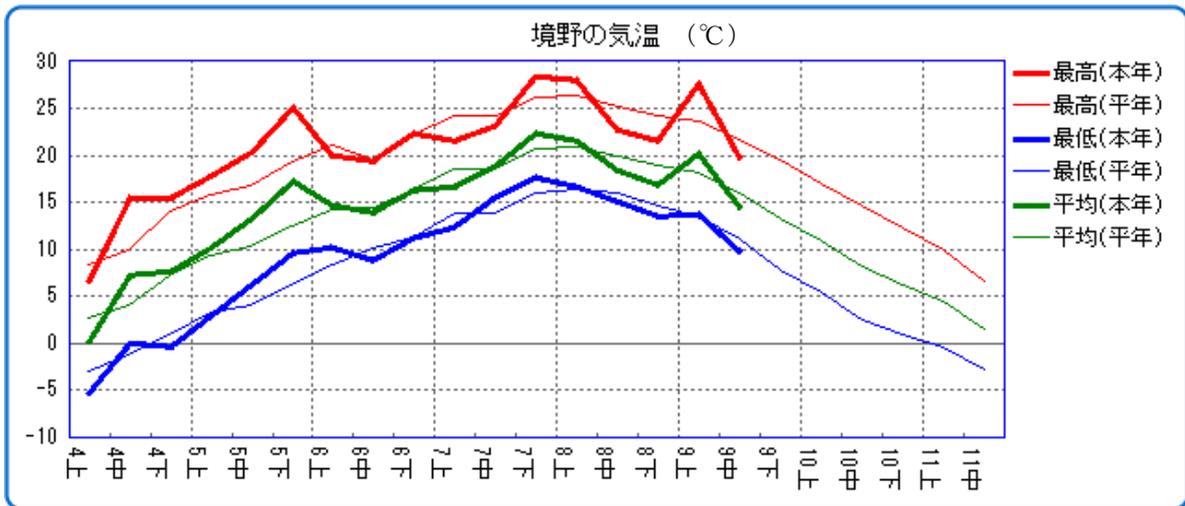
気 象 表

月 旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
8月 下旬	16.8	19.0	-2.2	21.6	24.3	-2.7	13.5	14.7	-1.2
9月 上旬	20.2	18.2	2.0	27.6	23.6	4.0	13.7	13.4	0.3
9月 中旬	14.5	15.9	-1.4	19.8	21.6	-1.8	9.7	11.0	-1.3

月 旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
8月 下旬	95.0	48.4	46.6	37.1	46.1	-9.0
9月 上旬	5.5	58.0	-52.5	78.4	46.5	31.9
9月 中旬	35.0	36.8	-1.8	38.2	50.6	-12.4

注) 観測値は置戸町境野のアメダスデータである。

10年平均は前10か年間の平均値である。



## 2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、オホーツク管内全体を代表するものではありません。

### 1) 春まき小麦 作 況：やや良

事 由：出穂期が平年より6～7日早く、成熟期が1日早かったことから、登熟期間は平年より長くなり（前報）、子実重は平年比100～108%で平年並から上回った。リットル重は平年並からやや下回ったが、千粒重は平年をやや上回った。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	春よ恋			はるきらり		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
子実重(kg/10a)	569	526	43	523	521	2
同上平年比(%)	108	100	8	100	100	0
リットル重(g)	805	806	△1	792	803	△12
千粒重(g)	41.0	39.4	1.6	42.6	41.1	1.5

注) 平年値は前7か年中、27年(最豊)、平成29年(最凶)を除く5か年の平均。

### 2) とうもろこし(サイレージ用) 作 況：やや不良

事 由：9月20日の稈長は平年を24cm下回った。抽糸期後の8月中旬以降の平均気温は平年並からやや低く推移したことから、登熟は平年よりやや遅れていると推測される。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
稈長(cm) (9月20日)	248	272	△24

注) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、25年(最凶)を除く5か年の平均。

### 3) 大豆 作況：平年並

事由：主茎長、主茎節数は平年をやや下回り、分枝数は平年並み、着莢数は平年をやや上回っている。登熟は概ね順調に推移している。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	ユキホマレ		
	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	—	9.26	—
主茎長 (cm) (9月20日)	61.8	67.7	△ 5.9
主茎節数(節) (9月20日)	10.0	11.0	△ 1.0
分枝数(本/株) (9月20日)	5.6	5.0	0.6
着莢数(莢/株) (9月20日)	71.7	67.8	3.9

注) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

### 4) 小豆 作況：平年並

事由：「サホロショウズ」「エリモショウズ」とも主茎長、主茎節数、分枝数は平年並からやや下回っている。着莢数は平年に比べ、「サホロショウズ」がわずかに多く、「エリモショウズ」でやや少なかった。まだ成熟期には達していないが、莢の登熟は概ね順調に推移している。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	サホロショウズ			エリモショウズ			きたろまん(参考)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)		9.26	—		10.1	—		9.30	—
主茎長 (cm) (9月20日)	73.5	77.0	△ 3.5	64.7	67.7	△ 3.0	57.9	75.0	△ 17.1
主茎節数(節) (9月20日)	12.6	13.8	△ 0.8	12.9	14.3	△ 1.4	12.0	13.3	△ 1.3
分枝数(本/株) (9月20日)	3.4	3.9	△ 0.5	3.4	3.6	△ 0.2	3.1	2.9	0.2
着莢数(莢/株) (9月20日)	56.4	53.1	3.3	50.0	54.0	△ 4.0	55.6	47.1	8.5

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

ただし、きたろまん(参考)は、前5か年(平成26~30年)の平均。

5) 菜豆

作況：平年並

事由：成熟期は平年より3日早い8月31日であった。成熟期における草丈は小さかったが、主茎節数は平年並、分枝数はやや多かった。着莢数、一莢内粒数はともに平年並であった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	大正金時		
	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	8.31	9.3	△ 3
草丈(cm) (成熟期)	35.1	43.0	△ 7.9
主茎節数(節) (成熟期)	5.6	5.2	0.4
分枝数(本/株) (成熟期)	5.9	4.8	1.1
着莢数(莢/株) (成熟期)	20.0	20.3	△ 0.3
一莢内粒数	2.89	2.84	0.05

注) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

6) ばれいしょ

作況：やや良

事由：「男爵薯」では、枯ちよう期は平年より4日早い8月28日であった。前報の通り、上いも重、でん粉価とも平年を上回った。晩生種の「コナユタカ」では、9月上旬の多照・小雨により塊茎肥大は順調に進んでおり、上いも重、でん粉価とも平年を上回っている。一方、「コナフブキ」では、早期の倒伏による影響で塊茎肥大は鈍化し、上いも重は平年をやや下回っており、でん粉重は平年並である。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ			コナユタカ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
枯ちよう期 (月.日)	8.28	9.1	△ 4		10.4			—	
上いも重 (kg/10a) (9月20日)	5146	4540	606	4589	4778	△189	6097	5582	515
でん粉価 (%) (9月20日)	16.7	15.3	1.4	23.2	23.0	0.2	21.7	21.0	0.7
でん粉重 (kg/10a) (9月20日)	—	—	—	1019	1030	△11	1265	1109	156

注) 平年値は前7か年中、平成24年(最豊)、30年(最凶)を除く5か年の平均。

## 7) てんさい

作 況：やや良

事 由：この1か月間は十分な降水量と日照時間があり、生育は順調に進んだ。移植栽培では、「リッカ」の草丈や「アマホマレ」の根重が平年をやや下回っているものの、その他の項目ではほぼ平年並からやや上回っており、直播栽培では、すべての項目で平年を上回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	移植						直播		
	リッカ			アマホマレ			リッカ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (9月20日)	57.0	60.0	△3.0	60.8	59.5	1.3	62.8	61.4	1.4
生葉数 (枚) (9月20日)	26.1	25.8	0.3	29.9	28.7	1.2	25.7	22.7	3.0
茎葉重 (g/個体) (9月20日)	747	695	52	868	827	41	759	694	65
根重 (g/個体) (9月20日)	1131	1088	43	1044	1073	△29	1031	876	155
根周(cm) (9月20日)	37.1	36.9	0.2	38.5	38.6	△0.1	34.6	33.0	1.6
根中糖分 (%) (9月20日)	15.61	15.77	△0.16	16.10	16.23	△0.13	15.92	15.26	0.66

注) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

## 8) 牧 草 (チモシー)

作 況：不良

事 由：1、2番草の合計乾物収量は平年比81%と不良であり(前報)、3番草再生時(2番草刈取後25日目：8月24日)の草丈は平年並であった。その後、9月上旬は気温が高く、降水量が少なく推移したことから、この期間の生育がやや停滞したと推察される。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目		なつちから		
		本年	平年	比較
草丈(cm)	3番草再生時	40	40	0

注) 平年値は前7か年中、平成24年(最豊)、27年(最凶)を除く5か年の平均。

9) たまねぎ

作 況：不良

事 由：枯葉期は両品種とも概ね平年並であった。8月上旬にまとまった降雨があり、両品種とも平均一球重および総収量は概ね平年並であったものの、分球が多かったことから規格内率は低く、規格内収量は平年を下回っている。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	オホーツク222			北もみじ2000		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
根切日 (月.日)	8.8	8.13	△5	8.16	8.19	△3
枯葉期 (月.日)	8.23	8.22	1	8.27	8.27	0
収穫期 (月.日)	9.2	8.31	2	9.2	9.8	△6
総収量 (kg/10a)	7489	7654	△165	6661	6999	△338
規格内収量 (kg/10a)	5608	6602	△994	5310	6414	△1104
同上平年比 (%)	85	100	△15	83	100	△17
規格内率 (%)	75	86	△11	80	92	△12
平均一球重 (g)	240	248	△8	213	225	△12

注) 平年値は前7か年中、平成25年(最凶)、28年(最豊)を除く5か年の平均。